

二戸市民文士劇 新説 相馬大作

新型コロナの影響で3年ぶりの演劇公演となった二戸市民文士劇。第9回公演「新説 相馬大作」が10月8、9日の両日に市民文化会館で行われました。劇中の様子や舞台裏などをフォトレポートで紹介します。



いつまでもお元気で 100歳の誕生日おめでとうございます



花束を持つ藤嶋さん(中央)と長男の奥さんのハツエさん(右)

藤嶋^{とうじま}藤壽さんは9月24日、100歳の誕生日を迎えました。現在利用しているデイサービス施設にて、市長よりお祝い状と記念品が贈られました。

金田一地区出身で、戦時中は捕虜として3年間シベリアに抑留された経験があるそうです。帰国後は、合併前の旧金田一村から議会議員を計5期20年間務めました。日課は、新聞を隅から隅まで欠かさずに目を通すこと。また、マグロのお刺身が好物で「今まで好き嫌いなく何でも食べてきたのが良かったかな」と健康の秘訣を話しました。

高峯ヒテさんは10月12日、100歳の誕生日を迎えました。当日は特別養護老人ホーム浄心園で2人の息子さん同席のもと、祝う会が行われました。

福田地区出身で、結婚後は家業の農家を手伝いながら生活しました。農閑期には飯場のご飯炊きや病院付き添いのヘルパーなども勤め、自宅では傘や籠作り、うどん、そば打ちを行うなど一年中忙しく過ごしていたそうです。高峯さんは「自分のやりたいことを、遠慮せず自由にやらせてもらったことが長生きに繋がった」と笑顔で話しました。



100歳を祝う会に出席した皆さんと笑顔で記念撮影



賞状を受け取る澤藤さん(中央)と長男の透さん(左)

澤藤ヨシさんは10月14日、100歳の誕生日を迎えました。18日には、澤藤さんの希望で自ら市長室を訪れ、お祝い状と記念品を受け取りました。とても元気な澤藤さんは、介護サービスを利用せず下斗米の自宅で1人暮らし。週に1回、送迎バスを利用して天台の湯へ行くことが楽しみです。

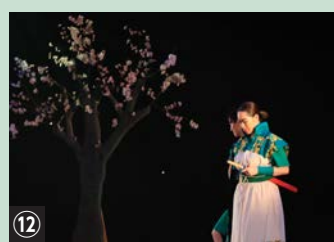
日課は、畑で野菜を育てること。買い物もコミュニティバスを利用し、自分で行くことが多いそうで「何も気にせず、のんびり暮らすことが長生きの秘訣」と笑顔で話しました。

今年は、音楽群像劇に挑戦

キャストやスタッフなど総勢約150人が携わり作り上げた大舞台。キャストはこの日を目指し、6月から稽古を重ねてきました。

今回の見どころは、歌舞伎の「勧進帳」をオマージュした場面。松の木を背景に迫真の演技で会場を魅了しました。また、今年は音楽群像劇にも挑戦。作曲は田口友善さんが務め、福岡高校吹奏楽部と二戸吹奏楽団、田口友善&ぶっとべRIDERSによる生演奏を披露。二戸大作太鼓愛好会によるパフォーマンズも行われ、舞台に花を添えました。

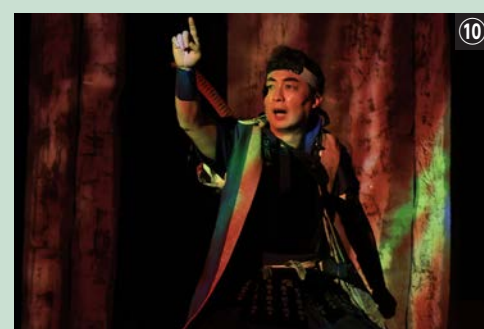
特別出演では、藤原淳市長をはじめ、二戸管内の首長ら、IBC岩手放送の江幡平三郎アナウンサー、みやこ市民劇の山根真生さんと松下竜之介さんが出演。会場は大いに盛り上がりしました。



⑪駕籠かきの熊五郎と八五郎⑫亡き利敬のお世継ぎ、吉次郎の願いで桜の名所に到着⑬黒覆面の侍に刺され、命を失う吉次郎⑭飛び道具を手にする弥七郎⑮迫力のある殺陣のシーン⑯大作が善太郎たちを助ける⑰歌舞伎の「勧進帳」をオマージュ。旅人の出入りや荷物などを取り締まる場所のシーンで、関所役人の富樫に目をつけられ、勧進帳を披露する大作⑱迫真の演技で会場が静まる⑲牢屋に入れられた大作。芳子との最後の別れ⑳津軽藩の失態が世間に知れ渡ることとなり、心残りは無くなった大作と良助。共に首を切られ、幕を閉じた



①物語の最初は、青年の田中館愛橘が故郷を離れ、東京へ行くシーンからスタートする②豊臣秀吉と側室の茶々、石田三成③④交互に舞台に明かりがつき、南部藩と津軽藩それぞれの思いを語る⑤周左衛門が大作に津軽藩へ仇討ちするよう頼む⑥妻、芳子との場面⑦刀鍛冶の大吉。大作に武器の準備を頼まれ、悩む様子を歌で表現⑧隠居勧告文を読む惣蔵⑨大作の考えを諭すように門弟たちへ伝える⑩講武実用流の砲術を披露



大作は、どんな未来を見据えていたのか

物語は江戸後期、南部藩と津軽藩の対立をベースに展開。南部藩・下斗米秀之進(のちの相馬大作)の理想は見栄の張り合いや確執を超え、国を守る人材を育成することでした。両藩それぞれの思いや、南部家お世継ぎをめぐる不可解な歴史など、新たな目線を加えつつ、主家存亡の危機に翻弄されながらも、最期まで心優しく強く、藩に忠義を尽くした大作の生涯が描かれています。



スタッフ、キャストの皆さん

＼ 二戸市民文士劇初出演 ＼



田中 愛橋役
関口 華月 さん

友人の誘いで参加し、読み合わせ初日はドキドキが止まりませんでした。稽古が始まり、たくさんの温かい気持ちに囲まれて過ごした3カ月間は本当に楽しかったです。

大好きな仲間と共に、無事に本番を迎えることができホッとしています。舞台から見たあの光景は、私にとってかけがえのないものとなりました。

＼ 主役を務めた ＼

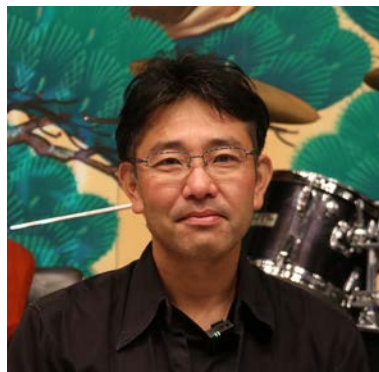


相馬 大作役
小野寺 隆 さん

相馬大作没後200年の節目の年に、相馬大作を演じることができ、嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ禍のため、スタッフやキャストの人数も少なく稽古もなかなか人が揃わない状況が続きましたが、終わってみれば公演は大成功だったと思います。本当にありがとうございました。

＼ 2度目の舞台監督に挑戦 ＼



舞台監督
山野下 誠 さん

演者や舞台スタッフの頑張りをサポートし、本番に向けて関わる全員を下支えして最高の舞台を整えるのが舞台監督の仕事だと思っています。

今回は、花吹雪や松羽目の背景、3色の定式幕など今まで使ったことのない装置を使いました。また、歌舞伎を音楽劇にアレンジしたことで斬新な劇になったと思います。



①本番前にメイク直し②舞台上に迫力のある音色を添えた福岡高校吹奏楽部と二戸吹奏楽団③大沢副市長と鳩岡教育長、近隣町村の首長らも登場④場を引き締める大作太鼓⑤大道具や音響など裏方チームの皆さん⑥バンド、吹奏楽、太鼓の合奏とダンスで会場を魅了⑦花びらを降らす大道具の準備⑧本番前に衣装の確認⑨田口友善&ぶっとべRIDERSの皆さん⑩幕間のフルートソロ演奏⑪会場を講談で盛り上げる⑫藤原市長も登場⑬観客から惜しめない拍手で幕を閉じた

